

2 0 0 1

授業概要

【シラバス】

専攻科

〈保育専攻・福祉専攻〉

白梅学園短期大学

SHIRAME GAKUEN COLLEGE

目次 (専攻科)

保育専攻 (1年)	1
教育原論	3
幼児教育特論	4
教育課程論	5
保育内容研究 I	6
保育内容研究 II	7
保育内容研究 IV	8
音楽研究	9
図画工作研究	10
現代保育特論 I	11
保育健康学特論	12
乳児保育特論	13
障害児保育特論	14
専攻科実習特演 I	15
専攻科実習 I	16
総合演習研究 I	17
修了研究演習	18
保育専攻 (2年)	19
保育内容研究 III	21
現代保育特論 II	22
保育・教育相談研究	23
家族福祉特論	24
専攻科実習特演 II	25
専攻科実習 II	26
総合演習研究 II	27
修了研究演習	28
福祉専攻	29
老人福祉論	31
リハビリテーション論	32
老人・障害者の心理	33・34
家政学概論・家政学実習	35~38
介護概論	39
介護技術	40
形態別介護技術(老人)	41
形態別介護技術(聴覚障害)	42
形態別介護技術(視覚障害)	43
形態別介護技術(内部障害・肢体不自由)	44
形態別介護技術(精神障害)	45
医学一般	46
レクリエーション活動援助法	47
実習指導	48
介護実習	49
修了研究演習	50
社会福祉制度政策論	51
障害福祉論	52
社会福祉援助方法論	53

保育専攻（1年）

【授業科目】 教育原論	担当者 岡本富郎
【開講時期】 1年前期	
【授業目標】 1. 保育の在り方を哲学的に探求する。2. 保育の構造を知る。 3. 討論を通じて、考える力、討論をする力を養う。	
【テキスト・参考書】 『FOR THE CHILD－保育者養成を考える』（蒼丘書林の岡本論文）「保育研究」（岡本論文「保育の構造」「戦後の保育内容」等）	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの現状、保育の現状。 2. 保育の内容（何を育てたいか） 3. 子ども像の在り方。どう描くのか。何故この子ども像なのか。 4. 保育と子ども期との関係（子ども期とはどういう時期なのか） 5. 子どもが生きるとはどういうことなのか。－生と死との関係－ 6. 子どもの幸せとは一体何なのか。 7. 戦後の保育内容について。 8. 保育構造について。 9. 保育構造は必要か。 	
【授業評価】 数回のレポートと発表、期末のレポート	

【授業科目】 幼児教育特論	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>わが国幼児教育の今日の課題を明らかにし、保育の歴史と多様な保育理論に学び、これからの保育のあり方を考えることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業の中で指定する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>資料を用意し、随時参考書を紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>幼稚園教育要領および保育所保育指針が改正され、2000年4月から幼稚園と保育所で新しい基準による保育が始められた。</p> <p>授業では保育の歴史をたどり、今日の子どもがおかれた状況と幼児教育の課題を明らかにする。</p> <p>この課題と取り組むこれからの保育を考えるため、近代における子どもの発見と生活教育・保育の思想の流れをルソー、ペスタロッチ、フレーベルに学び、19世紀の末から20世紀における子ども中心の教育思想と実践をデューイ、モンテッソーリなどに見る。</p> <p>わが国では倉橋惣三の誘導保育論をとり上げる。</p> <p>全体を通じて保育における「子ども中心」の思想を子ども観および遊び、仕事、経験そして環境および保育者の役割などの等の観点から学び、理解を深めることにしたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートおよび授業への出席と参加</p>	

【授業科目】 教育課程論	【担当者】 小川博久
【開講期】 1 年 後期 (集中)	
<p>【授業目標】</p> <p>専攻科の学生に保育という営みについての理論的理解を達成すると共に、そこから実践への戦略を立てる思考のあり方を追求する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「保育援助論」 生活ジャーナル</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>テキストを順次読み進め、それに対するレポートを作成させ、コメンテーターも加わり話し合いを進める。</p> <p>レポート作成にあたって、要旨、キーセンテンス、自己の意見、テキストへの疑問点を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート枚数 5枚 要旨 1枚、 キーセンテンス 1枚、 意見 1枚、 疑問点 1枚、以上5枚以内 ・コメンテーター 自分の意見、2枚を持ってくる。 ・司会を決める。 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目】 保育内容研究Ⅰ

【担当者】 若松美恵子

【開講期】 1年 前期

【授業目標】

乳幼児の身体運動を中心とした表現の発達および幼児の身体表現力の発達をふまえ、保育者は、子どもとの関わりの中で、子どもたちが、①感受性が豊かになる、②豊かに表現する、③表現を楽しむにはどのような援助、働きかけをすべきか、その指導方法について学ぶ。特に言葉がけについて演習形式で詳しく学ぶ。

【テキスト】

【参考書】

授 業 計 画

(1) 総論

- ①身体表現やリズムカルに身体を動かす等の幼児教育における現状と問題点
- ②保育現場でみられる身体表現
- ③身体表現の教育的意義
- ④指導の実践例

(2) 身体表現力の発達

- ①保育園の3歳未満児クラスに見られる身体表現とその変化
- ②身体表現活動にみられる身体表現力の発達(3歳児、4歳児、5歳児)

(3) 身体表現の指導法

- ①ねらい ②援助の基本的姿勢 ③援助の方法 ④言葉がけ

(4) 身体表現の援助における言葉がけの研究

- ①指導実践例における言葉がけの分析と整理
- ②言葉がけのありかた
- ③いろいろな題材からの身体表現の模擬指導と言葉がけの検討

【評価方法】

講義の一部、対話形式や演習形式を進める中、積極的な発言を期待する。これらを平常点とし、さらに最後に与えた課題について各自の考えを記述してもらう。

<p>【授業科目】 保育内容研究Ⅱ（認識）</p>	<p>【担当者】 近藤正樹</p>
<p>【開講期】 1年 後期</p>	
<p>【授業目標】 幼児教育法の各論“認識教育法”に重点を置いて、哲学・生理学・心理学・教育学におよぶ学際教科“認識”学を扱っている。私流に言えばinput教育法の概論という内容になる。自然現象の認識を例示することが多いが、社会現象・文化現象の認識にも通用する認識原理と考えてもよい。また認知科学とコンピューター・モデルにも言及する。研究法の一助にもなるよう配慮して編成してある。</p>	
<p>【テキスト】 中沢和子著「新版 幼児の科学教育」 国土社 (その他 プリントを配布する)</p>	
<p>【参考書】 時実利彦著「目で見る脳」 水野壽彦著「幼児の生活と自然」 敎学研究社</p>	
<p style="text-align: center;">授 業 計 画</p>	
<p>幼児教育法各論まどう考えるか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正しい認識を豊かに身につける教育法（inputの教育について） 2. 自分自身の知的財産を豊かに、効果的に表現できるようにする教育法（outputの教育について） 3. 望ましい生活習慣を身につけ、大人の社会に適応させる教育法（adaptationの教育について） 4. 自然認識・社会認識・文化認識 というサブ・ジャンルの特徴 <p>“認識”とは何か</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学におけるterminology（専門用語と生活用語） 2. 用語の正しい理解のしかた（外国語との比較のすすめ） <p>“認識”を理解するための生理学① 受容器と神経細胞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境のリセプター（全体区のリセプターと局所区のリセプター） 2. リセプター（受容器）の構造と機能 3. 神経細胞の構造と機能 <p>“認識”を理解するための生理学② 神経系と脳</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 神経系と神経節・脳の関係 5. 脳の構造と機能の分化 6. 生理学的原因による認識不全の現象 <p>“認識”を理解するための心理学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レンズ・眼による倒像と正立像とみなす適応 2. 残像と編集 3. 錯覚と先入観 4. イメージと記憶のファイリング 5. 夢とファイルと発想 6. “認識”のモデルとコンピューター <p>“思考”を考えるモデル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中沢和子著「新版 幼児の科学教育」の分析 2. 中沢和子氏の“思考のプロセス”のモデル 3. “思考”モデルとコンピューターのアナロジー 4. コンピューター理論の現状と未来 5. “認識”と“思考”の教育学的総括 6. “習・悟・意”の認識学的説明 	
<p>【評価方法】 時間中に提出するレポート と 期末試験による。</p>	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅳ	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】 保育所保育指針や幼稚園教育要領では「環境を通して行う保育」が特筆されており、そのなかで環境としての人間関係は重要な位置を占める。また、保育指針や教育要領では領域として「人間関係」がとりあげられている。本講では、子どもが育つ環境としての「人間関係」と、育ちのねらいの内容としての「人間関係」の二つを一つのものとして捉え、とくに集団生活に注目しながら考えていく。社会的存在としての人間・子どもの生活拠点としての人間関係のあり様を検討する	
【テキスト・参考書】 講義中に適宜指示する	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの育ちにとって必要な「人間関係」とは何か 2. 人と人が関わりをもつ意味 3. 集団生活のなかでの子どもの生活 4. 集団生活の展開過程 5. 集団生活を支える社会規範 6. 集団生活を支える文化 7. 子どもの集団生活と保育者の役割 8. 人間関係の発展と保育カリキュラム 	
【評価方法】 レポート並びに平常点	

[授業科目] 「音楽研究」	担当者 秋山治子
[開講期] 1年 前期	
<p>[授業目標]</p> <p>1 これまでに培ってきた音楽的な基礎知識、基礎能力を更に高めて、幼児の年齢発達を踏まえながら、音楽環境のありかたや指導法と内容等について実技を通して学ぶ。</p> <p>2 歌などのメロディーにきれいな伴奏が付けられるようにする</p>	
<p>[テキスト]</p> <p>1 「コードネーム・和声・伴奏付け」監修 秋山、共同音楽出版、</p> <p>* 幼児曲集からのコピーを数多く歌い、感想を出し合う</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>授業は、次の3つの柱に沿って進めていく。</p> <p>1 伴奏法の基礎と応用を実践する</p> <p>2 幼児曲を皆でうたい、曲についての感想を出し合いながらすすめる</p> <p>3 歌と楽器に関する幼児の音楽能力について実践を通して理解していく</p>	
<p>[評価方法]</p> <p>平常点、レポート</p>	

【授業科目名】 図画工作研究	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの造形表現活動の援助について、具体的な実践事例をもとにして学びます。</p> <p>特に、豊かな造形表現を実現するための環境づくりと援助のあり方について考察します。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>◆以下のテーマについて、授業を展開していきます。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの造形表現活動を豊かにしていくための環境づくりについて。 2. 子どもの造形表現活動を保育者として、どう受けとめ、どう働きかけるか、について。 3. 以上の2つのテーマについて、実際の保育現場での実践事例を検討材料にして、援助指導のあり方について分析考察をしていきます。 <p>(実際に保育現場へ行ったり、保育現場からのVTRや作品などの具体的な実践資料を活用していきます)</p> <p>*各授業の中で、レポート報告や話し合いなどの実践検討を行なっていきます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業で学んだ内容を一冊のノート (orファイル) にまとめて提出</p>	

【授業科目名】 現代保育特論 I	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 都市化、核家族化・少子化、女性（とくに母親）の社会進出の増大 価値観の多様化など社会のはげしい動きのなかで保育ニーズは多様化 し、さまざまな保育のあり方が求められている。さらに、児童福祉法 の改正をもととする制度変革期にあつて、保育行政からの課題も少な くない。家族や地域社会の保育ニーズにどう応えるか、そのための専 門性をいかに習得していくか、主として保育園に例をとりつつも幼稚 園にも共通のテーマとして捉えていく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>講義中に適宜指示する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをとりまく社会の動き 2. 保育をとりまく社会の動き (1)都市化 3. 保育をとりまく社会の動き (2)核家族化 4. 保育をとりまく社会の動き (3)少子化 5. 保育をとりまく社会の動き (4)女性の社会進出の増大 6. 保育をとりまく社会の動き (5)価値観の多様化 7. 保育制度の改変と保育園 (1)保育行政の変化 8. 保育制度の改変と保育園 (2)保育園機能の変化 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート並びに平常点</p>	

【授業科目名】 保育健康学特論	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1、日常の保育活動の中で遭遇するさまざまな子どもの健康問題や健康保育の実践について、具体的に理解する。</p> <p>2、子どもの健康問題や保健活動に対する見方や考え方について理解を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 毛利子来・山田真編集代表：月刊 ちいさい・おおきい・よわい・つよい、 ジャパンマシニスト社。</p>	
授 業 計 画	
<p>保育健康学特講は、保育実践における諸問題を健康学（健康の維持増進と疾病予防の学問）的に検討し理解することを目的とする。その講義内容は、大きく分けて、子どもの保健管理（主体管理、環境管理、生活行動管理）、保健教育、保育者の健康管理の3領域からなる。</p> <p>今日、健康対策において「ヘルスプロモーション」という概念が強調され、仲間とともに自らのからだや健康をまもり育てることのできる人間、そして健康的な環境と状況を創りだしていける人間が求められている。そこで、保育実践に関わる健康問題を検討するためのアプローチと視点は、教育学的、及び行動科学的な手法を重視する。</p> <p>主なテーマ 予防接種はどれを、どう受けますか 健康診断で何が分かるの おやつ、お菓子はむずかしい 肥満は病気のもと？ 子どもたちに何を食べさせたらいい？ けが、誤飲、転落 育児に除菌は必要ないの 知りたい食中毒と伝染病 知りたいインフルエンザ 注意欠陥・多動性障害（ADHD） 乳幼児突然死症候群（SIDS）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート、学習に対する意欲と努力</p>	

【授業科目】 乳児保育特論	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児保育における現状と課題を明らかにするとともに、今日、焦点となっている理論的、実践的問題を取り上げ、乳児保育についての理解を深める。また、子どもの育ちを保障する保育、親への援助のあり方を実践的に追求する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に、指示する</p> <hr/> <p>【参考書】</p> <p>授業時に紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>概ね、以下の内容で授業を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児の発達と保育実践 <ol style="list-style-type: none"> ①発達研究、実践研究が明らかにした乳児の発達と保育 ②乳児を保育実践についての各自の課題をもとに、実践検討を行う 2. 乳児保育の保育内容・方法に影響を与えている理論の検討 母子関係論、アタッチメント研究と乳児保育 3. 乳児保育をめぐる状況と問題 <ol style="list-style-type: none"> ①乳児保育ニーズの増大と保育所 ②乳児の長時間保育 ③今日の子育てと乳児保育 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①平常授業でのレポート、討議への参加 ②学期末レポート 	

【授業科目】 障害児保育特論

【担当者】 佐藤利恵子

【開講期】 1年 後期

【授業目標】

障害をもつこどもの保育をとりまく情勢について理解を深め
障害児保育(統合保育)の理論と実践の現在の到達点を探る。
親の心理やアプローチの難しいこどもの保育技術等重要なテーマに
ついて課題を設定しグループワーク形式で検討・研究を行う。

【テキスト】

【参考書】「いまどきしょうがい児の母親物語」ほれほれくらぶ (ぶどう社)
「統合保育-その理論と実際」清水貞夫 (学苑社)

授 業 計 画

- (1) 障害児保育をとりまく情勢と現状
- (2) 障害児保育(統合保育)の意義と課題
- (3) 親の心理とその援助
 - ア. 「障害」を受容できない場合
 - イ. 園と家庭との連携が難しい場合
- (4) アプローチの難しい子どもへの援助
 - ア. 落ちつきのない子ども
 - イ. 他児に乱暴を働く子ども
 - ウ. 同じおそびをくり返す子ども
 - エ. パニックをおこす子ども
 - オ. 偏食が強い子ども
 - カ. 重複障害をもつ子ども
- (5) 健常児やその親たちとの関わり
 - ア. 健常児との間にトラブルが生じた場合
 - イ. 親の集団づくり・園づくり
- (6) まとめ - 障害をもつ子どもと家族が生きるとは... -

【評価方法】

記述試験(持ち込不可)
平常点

【授業科目名】 専攻科実習特演 I	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>毎週、火曜日、木曜日の見学、観察実習を行うことによって保育者としての実践力を高めること。</p>	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自、幼稚園か保育所のどちらかを選び実習園を決める。 2. 実習のテーマを決める。（何を観察したいのかを考え、発表する） 3. 観察した内容を毎週発表し、全員で分析する。 <p>その際、分かったこと、分からないこと、次週に向けての課題を明らかにする。</p> <p>全員がレポートにして全員分を印刷して配布する。（A4横書き1枚）</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. すべての実習修了後、まとめのレポートを提出する。（原稿用紙400字5枚程度） <p>尚、実習園は原則として1年次の園と2年次の園は同じとする。</p>	
<p>【評価方法】 毎週のレポートと発表及び最後のレポート、実習園の評価等を基にして総合的に評価する。</p>	

【授業科目】 専攻科実習Ⅰ	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】 毎週、火曜日、木曜日に見学、観察実習を9週間に渡って行う。各自実習テーマを決めて、そのテーマを中心に実習を行う。実習を通して保育の実践能力を高めることが目標である。</p>	
<p>【テキスト】 特になし。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. 実習のテーマを考えて、全員の前で発表する。質疑応答をして最終的にテーマを決める。</p> <p>2. 毎週火曜日、木曜日に実習。</p> <p>3. 毎週、1回全員で実習内容の発表と分析を行う。A4横書きに書き全員に配る</p> <p>① 分かったこと。</p> <p>② 分からないこと。</p> <p>③ 次週への課題。</p> <p>以上の3項目について全員で討論をする。</p>	
<p>【評価方法】 毎週の発表、最後のレポート、実習評価票の評価を総合して評価する</p>	

【授業科目】 総合演習研究 I

【担当者】 近藤正樹 ・ 民秋 言

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】 近頃の社会的問題として児童虐待とか“いじめ”とか不登校とか気がかりな話題がふえてきた。これらは子ども間ばかりではなく、おとな間やおとなと子どもの関係、すなわちヒトとヒトとの関係が歪んでいること、不自然になってきたことと指摘されている。本講では、社会学的、自然科学的な考察のしかたを提示しながら、“集団の理解”という副題のもとに演習と講義を展開する。

【テキスト】 テキストは使用しない。

【参考書】 各項目ごとに、その都度紹介する。

授 業 計 画

＝ 集団の理解 ＝

集団の哲学的理解

集団とは何か 個体と集団 超個体的個体 個体群 } (月……民秋, 水……近藤)
ヒトの集団(社会)の特性 個人と法人

集団の生物学的(行動学的)理解 (水……近藤)

集団行動の比較と集団の進化
集団構成の秩序
集団にみられる性(性質・傾向)と制(形質・システム)

集団の社会学的理解 (月……民秋)

家族と友人とその他の人びと
集団の機能
集団を保つための規範
役割構造と権威の構造

集団の教育効果 (月……民秋)

集団特性の抽象的把握 (水……近藤)

集団理解上の技術 分布の様式と密度
集団特性の検証 特性値の統計操作

【評価方法】 宿題の発表状況と期末試験による。

【授業科目名】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 1 年 前期 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかで問題とされるテーマを各自選び、その課題解明を試み、論文にまとめる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>各担当教員の指示による。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合演習研究Ⅰの学習を踏まえ、学生がテーマを決める。 2. テーマによって、担当教員を決定する 3. 担当教員の指導を受けながら、研究作業を進める。 4. 修了研究論文をまとめ、提出する。 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への参加状況および修了研究論文により評価する</p>	

保育専攻（2年）

【授業科目】 保育内容研究Ⅲ	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児（障害児を含む）の言語の生活化の質にねらいをおく保育の追及をする。話しことば、書きことばの発達過程、思考活動や発想・想像・創造活動までを見通した内容の検討をする。</p>	
<p>【テキスト】 佐々加代子コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房 佐々加代子、発想・想像・表現、犀書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>随時提供する</p>	
授 業 計 画	
<p>言語の生活化は言語習得とその運用にある。言語習得は話しことばと書きことば、高次元の言語能力である思考活動や想像、その具体的表現としてのことばの産生や創作表現までを含んでみていくこととなる。</p> <p>1. 乳幼児の言語習得過程について概観する。 言語習得過程の第一段階である、コミュニケーション関係の成立過程についての学習をする。習得過程において、重要な役割を果たして行く信号行動系とその機能について体験的に習得していく。</p> <p>乳幼児の生活と遊びの場面のv t r, 母親の育児日誌、保育の観察記録、保育園や幼稚園の見学観察からの検討をする。</p> <p>2. 障害児の言語習得過程について概観する。 “障害”の見方 歪みの問題とその要因についての検討</p> <p>3. 保育者自身の言語の生活化の実態についての検討 保育活動において、その質を高めていくには、保育を担う保育者の質が問われることとなる。乳幼児の言語の生活化の担い手ともなる保育者自身の言語の生活化の状況（受講生の現況について）を言語能力の側面とその運用能力に関連する、人間関係（コミュニケーション）能力について評価をする。その上でその保育者の質への道筋についての検討をする。音声表現も含めてみる。</p> <p>4. いわゆる言語教材；絵本、紙芝居、パネルシアター、ことばあそび、ペープサート、素話、などの素材とその特徴及びその選用法についての検討をする。</p> <p>5. 対象児の年齢区分別の言語の生活化；かかわりかたの技法</p> <p>6. 創作作品とその表現法；年齢区分なく使えるもの</p> <p>7. 保育場面での表現法；音声を含むかかわりかた</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と平常点、演習結果のまとめのレポートとレポートで行う。</p>	

【授業科目】 現代保育特論Ⅱ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>「現代保育特論Ⅰ」において明らかにされた多様な保育ニーズに対応する保育のあり方、専門性について、より実践的に学習し、今日の保育実践を考える</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr/> <p>【参考書】</p> <p>授業時に紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>まず、今日の子育ての現状と保育の課題を深め、さまざまな子育て支援の実践、取り組みを行っている施設、保育所、幼稚園等の実践や保育論を取り上げ、検討する中で、その内容を知り、それぞれの問題の特質、大切な視点、課題についての理解を深める。</p> <p>その際、学生個々人が課題を持ち、現代の親や子どもの育ち、保育のあり方について、自分なりの視点で捉え直していけるように進めるつもりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の子育ての現状と保育の課題 2. 子どもの育ちと求められる保育実践 3. 子育て支援とは 4. 働く母親への支援 5. さまざまな困難を抱えた家族への支援 6. 子育てに対する支援 7. 親と保育者の関係の捉え方 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①平常授業でのレポート、討議への参加 ②学期末レポート 	

【授業科目】 保育・教育相談研究	【担当者】 村田保太郎
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育・教育相談の今日的意義を理解するとともに、相談の基本的な理論と技術を研究し、保育・教育相談に基づく人間理解と対人対応の在り方について研究を深める</p>	
<p>【テキスト】 「幼児保育とカウンセリングマインド」氏原 寛他編 ミネルヴァ書房</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 保育・教育相談における今日的意義と課題 2 カウンセリング及びカウンセリングマインドの理解を深め、その理論と技法について実践的な力を習得する 3 実例を通して、保育・教育相談の在り方について探究する 4 カウンセリング理論の立場から幼児理解を深める 5 カウンセリングマインドを生かした実践例を基にした事例研究 6 ロールプレイングによる保育・教育相談の実際を体験する 7 保護者等、対人関係における具体例を通して相談研究を深める 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業の中でのミニレポート 2 ロールプレイングにおける対人対応の仕方 	

【授業科目】 家族福祉特論	【担当者】 吉澤英子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>少子高齢社会といわれ、社会的問題現象(マクロ)が顕著に出現している。この問題現象の基盤には家族関係の歪みや増大していることが多い。「家族の自立」へ向け、いかにマクロ-ミクロが必要なのか、その対応と探究する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用せず</p>	
<p>【参考書】</p> <p>必要に応じて紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>§1. なぜ「家族福祉か」→「家族福祉」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭」と「家族」をめぐり諸課題・概念の明確化 ・「家族関係」について ・ライフサイクルとファミリーサイクルとの関連で <p>§2. 家族福祉と社会福祉の分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家族」の養育機能・扶養機能 ・家族関係の障害と人格発達 ・家族福祉サービス・諸相 → 家族に対する援助 <p>§3. 家族福祉の具体的展開(方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の自立 → 個々の自立 ・家族の自立への支援 ・家族をめぐり諸制度(関連) → 家族療法 他 <p>§4. 家族福祉の発展過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慈善組織運動と家族福祉 ・環境改善運動と家族福祉 ・家族関係心理主義 ・生活者としての家族 <p>§5. まとめ(総括と課題)</p>	
<p>【評価方法】 以下の項の総合によって評価する。</p> <p>1) 授業はすべてディスカッションによって、すすめるのでその参加状況 2) 受講生の課題内容 3) 授業時間内での課題に 対するレポート(提出する)の内容 4) その他</p>	

【授業科目】 専攻科実習特演 II	【担当者】 師岡章
【開講期】 2年後期	
【授業目標】 ① 週2日の実習の在り方について知る。 ② 各自の「実習テーマ」について報告し、学び合う。 ③ 毎週、実習内容について分析し、学び合う。 ④ 実習終了後、全体の分析とまとめをする。	
【テキスト】	
----- 【参考書】 授業時に適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
① 専攻科実習の意義と内容について話す。 ② 各自の「実習テーマ」について報告し、学び合う。 ③ 具体的な観察の方法について学び合う。(1) ④ 同上 (2) (以上が実習前の内容。以下は、実習中と終了後の内容。) ⑤ 毎週、実習内容についての分析、討論。(計9週) ⑥ 実習終了後、全体で実習内容の分析とまとめをする。 ⑦ 実習記録の小冊子を作成する。	
【評価方法】 平常点とレポート	

【授業科目】 専攻科実習 II	【担当者】 師 岡 章
【開講期】 2 年 後 期	
<p>【授業目標】</p> <p>「専攻科実習特演II」で学んだ実習内容を基にして実習に取り組む。</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>① 質の高い保育者をめざして、総合的な実践能力を高めるために、多様な視点を持って観察し、体験をする。</p> <p>② 指導計画案を立て、可能な限り、指導実習を体験させていただく。</p> <p>③ より実技的に高度な実践能力を身につけるための体験をする。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、実習記録、反省会などを総合して評価</p>	

【授業科目】 総合演習研究Ⅱ	【担当者】 鈴木 佐喜子・民秋 言
【開講期】 2 年 前期（後半）・後期（前半）	
<p>【授業目標】</p> <p>この科目は、「総合演習研究Ⅰ」の成果を土台として、保育者として、一層高度な資質を養い、実践的な力量を高めることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr style="border-top: 1px dotted black;"/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>この科目では、より高い実践的な力量、指導力を高めるために、位置づけ、ディスカッション、実地体験、調査等の方法を用いて演習的に行う。</p> <p>「総合演習研究Ⅰ」の課題「人間尊重・人権尊重」「少子化問題」「多様な保育ニーズ」「異文化理解」「社会への男女共同参画」等を取り上げ、幼稚園教育・保育の場においてどのように実現していくのか、指導方法や保育内容等、実践的に検討する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・授業における討論への参加状況・レポート</p>	

【授業科目名】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかで問題とされるテーマを各自選び、その課題解明を試み、論文にまとめる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>各担当教員の指示による。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合演習研究Ⅰの学習を踏まえ、学生がテーマを決める。 2. テーマによって、担当教員を決定する 3. 担当教員の指導を受けながら、研究作業を進める。 4. 修了研究論文をまとめ、提出する。 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への参加状況および修了研究論文により評価する</p>	

福 祉 専 攻

【授業科目】 老人福祉論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科 福祉専攻 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>前期は、老人福祉についての基本的視点をしっかり身につけることを授業目標に進め、後期はケアのあり方など実践に即して学習していきます。また、介護保険をはじめ老人福祉制度については、前期実習前にその初歩を、本格的学習は後期の課題とします。</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老人福祉の社会的背景について学ぶ。 2. 老人福祉の理念・目的を学ぶ。 3. 老人のおかれている状況及び生活実態について学ぶ。 4. 介護保険制度をはじめ、現行および今後の老人福祉、老人保健の政策、制度について学ぶ。 5. 老人福祉、老人保健サービスの体系、事業内容及び活用手続き、具体的実践活動を学ぶ。 6. 老人福祉実践について具体的事例をもとに学び、ケアの在り方について考える。 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の人権を守るケアの在り方について学ぶ。 2. 在宅福祉への取り組み方、および地域社会との連携の意義と方法について学ぶ。 3. 家族やボランティアとの関わる意義と方法について学ぶ。 4. 施設運営の円滑化について学び、他業種との連携の意義と方法について学ぶ。 5. 福祉労働の在り方について学ぶ。 	
<p>【参考図書】</p> <p>「すべての人にゆたかな老いを」 (文理閣)</p> <p>その他、授業中に適宜紹介します。また、参考論文はコピーして授業で使います。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>授業は、上記授業目標を具体化し、プリントを中心に進めます。また、ビデオも活用します</p>	
<p>【評価の方法】</p> <p>授業は、定時に始めます。</p> <p>最初の5分間で、その日の授業について考えることをミニレポートで書き、それで出席確認します。授業の合間になるべく小グループによる話し合いを取り入れ、最後の7分間で自分自身の授業のまとめレポートを書きます。</p> <p>また、定期試験は、レポートとします。授業は最初から聞いていないと理解が不十分です。したがって、遅刻は厳しくチェックします。</p> <p>評価は、平常点（遅刻、欠席、ミニレポート提出状況等）30%、試験（レポート）70%で、その総合点で評価します。</p>	

【授業科目】 リハビリテーション論	【担当者】 八重田 淳
【開講期】 1年 後期	
【授業目標】 心身に障害をもつ人をはじめ、様々な社会的ハンディキャップをもつ人々に対するリハビリテーションの基本原則、プロセス、自立支援の方法、社会生活能力とQOLの向上を目指した援助のあり方について学ぶ。	
【テキスト】 未定	
【参考書】 リハビリテーションの理論と実際 上田敏編、セミナー介護福祉、ミネルヴァ書房、1996年発行、定価2,600円	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">原則として、以下の講義内容に沿って講義を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの意味 2. リハビリテーションの理念 3. リハビリテーションの歴史 4. リハビリテーションの対象 5. リハビリテーションサービス 6. 障害児教育と Habilitation 7. 身体障害者のリハビリテーション 8. 知的障害者のリハビリテーション 9. 精神障害者のリハビリテーション 10. 高齢者のリハビリテーション 11. 地域リハビリテーション 12. リハビリテーション工学と環境整備 13. 職業リハビリテーション 14. 社会リハビリテーション 15. リハビリテーション連携科学 	
【評価方法】 授業態度を含む出席状況、授業時間内で行う課題の達成度、筆記試験により、総合的に評価する。	

【授業科目】 老人・障害者の心理	【担当者】 奥住秀之
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>①最近の障害者問題で注目されている事柄を学習しましょう ②最近の障害者問題の課題を考え、その解決方法を探りましょう</p>	
<p>【テキスト】 尾崎 望・出島 直(編)：新版・子どもの障害と医療. 東京. 全国障害者問題研究会出版 2000年 2000円＋税 ISBN4-88134-313-0</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p><u>教材について</u></p> <p>①テキストを読みながら授業を進めますので、必ず購入してください ②随時、ビデオや配布資料を使います</p> <p><u>授業内容</u></p> <p>①障害の見方はどのように変わってきたか 障害一般 知的障害（精神遅滞）</p> <p>②「特別な教育的ニーズ」を有する子どもたち 学習障害 注意欠陥多動性障害</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席，テスト，レポートなどから総合的に判断します</p>	

【授業科目】 老人・障害者の心理	【担当者】 高山 緑
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>本講義のねらいは老年期の心理を理解することである。年齢をとれば誰にでも起きる正常な加齢変化と、病気などが原因で起きる病的な加齢変化とを区別して、現実におこっている加齢変化（老化）を偏見なく理解できるようにする。また、生涯発達の枠組みの中で、老年期の発達を学んでゆく。</p>	
【テキスト】	
<p>【参考書】 下仲順子(編) 老年心理学 培風館 西村純一(著) 成人発達の心理学 酒井書店</p>	
授 業 計 画	
<p>1 老年心理学の歴史・高齢社会のもたらしたもの 高齢者の心理を学ぶにあたり、加齢変化や老年期などの概念と理論、老年心理学の歴史、高齢社会の現状などについて学ぶ。</p> <p>2 高齢期の疾患と身体・生理機能の老化 高齢期におこりやすい身体疾患、視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚などの感覚機能の加齢変化、および運動機能の加齢変化などについて学ぶ。</p> <p>3 高齢者の記憶 記憶の加齢変化の特徴について学び、記憶の低下による失敗を少なくするにはどうしたらよいか、考える。</p> <p>4 高齢期の知能・創造性・知恵 生涯を通じて知能はどのように発達するのか、生涯発達の視点にたって理解する。また高齢期の創造性、知恵にいても学んでゆく。</p> <p>5 人格と加齢・高齢期の適応 人格が成人期以降、どのような発達・変化をするのか生涯発達の視点にたって理解する。</p> <p>6 死と死にゆく過程 死にゆくプロセスについて学び、人間として尊厳に満ちた死を迎えるにはどうしたらよいか、また残された人々のところをどのように理解したらよいかについて考える。</p> <p>7 高齢期の家族と対人関係 高齢期の家族関係、対人関係について、モデルや研究成果をふまえながら理解する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>講義への取り組み方・レポート等から総合的に評価する</p>	

【授業科目】 家政学概論・家政学実習	【担当者】 山本良子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>生活基盤をなす、家政学の概要を被服生活の分野について、必要な基礎知識を概説し、介護者として高齢者や障害者の衣料品について実践の場に役立てられるように問題点を考え、実習では、衣服の調整ならびに管理に必要な実際を理解することを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>宮崎礼子編 家政学概論 誠信書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>中島清喜子・駒津君代・土橋とき子共著 寮母・ヘルパーの家政学①被服（全国社会福祉協議会）</p>	
授 業 計 画	
<p>被服生活について、下記の項目について概説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 被服の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> ①被服着用の目的 ②被服の機能 2) 被服の素材と品質表示 <ol style="list-style-type: none"> ①被服の素材の種類と性能 ②被服素材の加工 ③被服素材の品質表示 3) 被服と保健衛生 <ol style="list-style-type: none"> ①被服と体温調節 ②汚れと被服 ③衣料障害 4) 被服の選択と管理（寝具類を含む） <ol style="list-style-type: none"> ①被服の選択 ②被服の管理 5) 高齢者、障害者と被服 <ol style="list-style-type: none"> ①高齢者の被服 ②障害者の被服 <p>以上をもとに特に高齢者、障害者の最適衣料品のありかたについて考える。</p> <p>実習では、素材の簡単な鑑別の仕方、取り扱い方法、被服の縫製の基礎と応用について行う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート・平常点</p>	

【授業科目】 家政学概論・家政学実習	【担当者】 安倍 澄子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>家族と家庭生活の運営・管理に関する基礎的知識・事項と、生活運営や生活様式に影響を与える住生活領域に関する基礎知識・事項を学習し、家事労働・介護援助のあり方と介護援助を生活自立・維持側面と、地域社会との関わりをもふまえ、その社会的役割についても考察する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>宮崎礼子編 「家政学概論」 誠新書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>宮村光重・倉野精三編 「家族の変化と生活経済」 朝倉書房</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>今日の高齢化社会といわれている現状を家族の変化とあわせて概観し、家庭生活にもたらされている変化や多様な影響について把握する。さらに、地域社会、とりわけ居住環境との関連からもその影響について検討を加える。</p> <p>これらから、家事・介護援助に携わる者として、家族の多様なあり方への理解と、個々人の生活の仕方や家族観・生活観が世代によって異なっていることへの洞察力を養うようにする。</p> <p>そこで、授業では、家族の変化と家庭生活についての社会的視点と生活史的視点をもって把握できるように配慮し、あわせて住まい方や地域社会の居住環境との関連からも、介護援助のあり方を考察できるようにし、家事・介護援助者としての実践力を培う一助としたい。</p> <p>授業で取り上げる項目は、おおよそ次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族・家庭生活の現状と変遷 2. ライフサイクル・家族周期の変化と生活設計の課題 3. 生活時間論 4. 家事労働論 5. 生活経済（家計費論）、高齢者・障害者と消費者問題 6. 住まい方と居住環境 7. 住宅改善の視点とその効果 8. 高齢者・障害者と住政策 <p>なお、実習では、生活行為を時間・空間の2側面から捉える生活実態把握の調査手法を習得する。この調査結果の分析を通じて、「生活」を客観的に把握し、問題点を分析・考察できる目を養う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートと授業や実習時における取り組みの姿勢から、総合的に評価する</p>	

【授業科目】 家政学概論・家政学実習	【担当者】 関 真理子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者・障害者の望ましい食生活のあり方についての基礎的な知識を習得し、実践のための理解を得る。</p> <p>また、食生活に関する様々な技能を実習を通して学び、高齢者や障害者の食生活支援能力を養う。</p>	
【テキスト】	
<p>【参考書】 授業で紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活と食事 2. 身体の機能と栄養（生体リズムと栄養、栄養素、消化吸収） 3. 高齢者・障害者と栄養（加齢・障害と食生活のあり方、栄養所要量） 4. 食生活と健康（生活習慣病、病態時の栄養） 5. 食品の成分と保存、管理、食品衛生 6. 調理（献立作成、調理） 7. 高齢者・障害者の食生活と調理法、食器 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート、平常点</p>	

【授業科目】 家政学概論・家政学実習	【担当者】 関 真理子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者・障害者の望ましい食生活のあり方についての基礎的な知識を習得し、実践のための理解を得る。</p> <p>また、食生活に関する様々な技能を実習を通して学び、高齢者や障害者の食生活支援能力を養う。</p>	
【テキスト】	
<p>【参考書】 授業で紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活と食事 2. 身体の機能と栄養（生体リズムと栄養、栄養素、消化吸収） 3. 高齢者・障害者と栄養（加齢・障害と食生活のあり方、栄養所要量） 4. 食生活と健康（生活習慣病、病態時の栄養） 5. 食品の成分と保存、管理、食品衛生 6. 調理（献立作成、調理） 7. 高齢者・障害者の食生活と調理法、食器 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート、平常点</p>	

【授業科目】 介護概論	【担当者】 森山千賀子
【授業期】 1年 前期・後期	
【授業目標】 高齢者・障害者の生活の維持・向上をはかり、快適な生活を過ごすことができるように介護の理論と方法を学ぶ。	
【テキスト】 介護福祉士選書 14 『介護福祉概論』 建帛社	
【参考書】 授業で紹介する	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉の概念と歴史 2. 介護福祉の目的・機能・専門性 3. 対象の理解ーグループワーク 4. 介護福祉における援助関係 5. 介護福祉に必要なコミュニケーション 6. 介護技術の基本ー安全・安楽・安心・経済性と介護 7. 自立（律）と生活の質の保障と介護 8. 介護福祉の活動領域：地域・在宅・施設 9. 関係職種との連携とチームワーク 10. 介護過程とケアマネジメント 11. 介護福祉と死：終末期の介護 12. 介護者の健康管理と安全対策 	
【評価方法】 レポート 平常点	

【授業科目】 介護技術	【担当者】 森山千賀子・長谷川陽子
【授業期】 1年 前期・後期	
【授業目標】	高齢者や障害者あその人らしく快適に生活し、さらに生活の可能性を拡げるための援助である介護の技法を習得する。
【テキスト】	介護福祉士選書 15 『介護技術』 建帛社
【参考書】	授業で紹介する
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を必要とする人々の生活を理解する。 2. 日常生活援助の介護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーション 2) 観察 3) 居住環境の整備 4) 食事・清潔・排泄・衣服の選択と着脱 5) 社会生活の維持拡大：姿勢・移動の動作 6) 安楽と安寧の技法 7) 医療上の対応と介護 8) 緊急事故時の対応 3. 家族支援のための介護技術 4. 福祉用具の活用 5. 記録・報告と介護 6. 介護過程 7. 終末期の介護 	
【評価方法】	試験 レポート 平常点

【授業科目】形態別介護技術（老人）	【担当者】森山千賀子
【授業期】 1年 前期	
【授業目標】 高齢者介護の基本理念と介護方法の基礎を理解する。	
【テキスト】 介護福祉士選書 16 『形態別介護技術－老人編』 建帛社	
【参考書】 授業で紹介する	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者介護を取り巻く環境 2. 高齢者介護の基礎－高齢者の生活と特性 3. 虚弱な高齢者・一人暮らし・高齢者世帯への援助 4. 寝たきりの高齢者の理解と介護 5. 痴呆性高齢者の理解と介護 6. 在宅の高齢者の理解と介護 7. 高齢者介護と自己の介護観～介護実習や書籍・文献・新聞などを通じての自己の見解を発表・討論する。 8. ロールプレー～様々な疾患や環境にある事例をもとにグループで役割演技を行い、介護の方法や援助者の役割等について学習する。 	
【評価方法】 レポート 平常点 筆記試験	

【授業科目】 形態別介護技術（聴覚障害）	【担当者】 貞廣邦彦
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 聴覚障害に関する医学的知識を理解する。 2 聴覚障害者の生活や心理を理解した適切な介護法を考える。 3 残存感覚機能の活用法および音声言語に代わるコミュニケーション方法を習得する。 4 福祉器具や用具についての知識と使用法を習得する。 5 聴覚障害に他の障害が加わった重複障害者の介護について考える。 	
<p>【テキスト】</p> <p>「手にことばを（初級）」東京都聴覚障害者連盟発行</p>	
<p>【参考書】</p> <p>「わたしたちの手話（1）」全日本ろうあ連盟発行</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1 聴覚障害の原因・種類・程度と残存感覚機能が生活へ及ぼす影響 2 聴覚障害者のコミュニケーション方法と介護の留意点 3 残存感覚機能を活用するための器具の利用法 4 聴覚障害者の情報と福祉機器の種類 5 重複障害者への対応と介護 6 手話の基礎的知識と指文字 7 生活場面での手話表現 8 会話場面での手話表現 9 聴覚障害者との手話演習 10 手話の特徴と手話通訳の基礎的演習 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業の出席状態と筆記試験によって評価する。</p>	

【授業科目】 形態別介護技術（視覚障害）	【担当者】 立花明彦
【開講期】 1年 後期	
【授業目標】 視覚障害といっても、その程度、原因、障害発生時期および今後の進行予測など、個人によってそれぞれ固有な状態である。特に最近は、高齢で失明する人が増加しており、生活の状況はきわめて多様である。一人一人の状態を正しく認識し、適切な介護をするための知識技能を習得する。	
【テキスト】 視覚障害者の介護技術、点訳のしおり	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>視覚障害に関係する医学的知識、残存感覚の活用など視覚障害を理解するための基礎的な知識を養う。</p> <p>視覚障害児者の生活を理解するため、その教育、職業、生活の現状について学習する。</p> <p>介護技術としては、歩行・移動の介護と、コミュニケーションの介護として、点字の読み書き、普通文字の音訳（読み）と代筆の基本的な知識技能を学習する。</p> <p>日常生活において視覚障害による不自由を正しく理解し、適切な介護ができるような心構えを養う。</p>	
【評価方法】 平常点、筆記試験	

【担当科目】 形態別介護技術 (内部障害・肢体不自由)	【担当者】 落海 文子
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 1. 肢体不自由者(児)・内部障害者に関する医学的知識及び生活障害に関する総合的知識を学ぶ。 2. 肢体不自由者(児)・内部障害者に対する日常生活上の介護・援助方法を体系的に学ぶ。	
【テキスト】 テキスト 障害形態別介護技術 (中央法規出版KK)	
【参考書】 参考書、資料、ビデオなどを講義のなかで随時紹介する。	
授 業 計 画	
1. 肢体不自由・内部障害をもたらす原因疾患について、基礎的知識を学ぶ。 2. 肢体不自由者(児)・内部障害者の障害をもつことにより発生する生活の障害について理解する。 3. 肢体不自由者(児)・内部障害者のニーズに合った介護技術を習得する。 4. 障害を持つ人々の心理や行動特徴を理解し、QOL向上をめざした生活支援の方法を学ぶ。 5. 介護に必要な福祉用具の知識と活用方法を学ぶ。	
【評価方法】 レポート 試験 平常点	

【授業科目】 形態別介護技術（精神障害）	【担当者】 池末 亨
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>精神障害者が地域生活を進める上で必要な福祉的援助のあり方について検討する。特に1999年5月精神保健福祉法改正で法定事業になり、2002年度から全国で実施されることになったホームヘルパー派遣制度の意義と課題について詳しく検討する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>精神障害者ホームヘルパー研修テキスト(精神障害者社会復帰促進センター)</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1、 精神病に対する治療とは別の、精神障害に対する福祉的援助の意義 2、 精神障害者に対する地域生活支援施策の概要 3、 精神障害者共同作業所の歴史的役割 4、 1999年5月精神保健福祉法改正と市町村の役割 5、 精神障害者ホームヘルパー派遣制度の意義と課題 6、 精神障害者ホームヘルプサービスの実際 7、 ホームヘルプサービスを進める際の医療保健関係者との連携 8、 まとめ 	
<p>【評価方法】</p> <p>8回目(最終回)の講義の後半でテストを行う。</p>	

【授業科目】 医学一般	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の解剖・生理学を base に、加齢現象や臓器相関性の理解を図る。 2. aging による種々の障害や疾患の理解をはかり、予防法の習得をめざす。 3. 医療・介護の現場で理解しておいた方が better な知識の習得。 4. 健康増進および疾患予防に関する知識の理解。 	
<p>【テキスト】</p> <p>介護福祉士養成口座10 医学一般 (中央 法規)</p>	
<p>【参考書】</p> <p>からだの構造と機能 A. シェフラー ,S. シュミット著 (西村書店)</p> <p>ベッドサイドマニュアル 成人内科看護 (中央法規)</p> <p>看護観察のキーポイントシリーズ 高齢者 (中央法規)</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1.1) 解剖学・生理学を中心に人体全体の仕組みを把握する。 2) 加齢による老化の理解。一定義・特徴・学説・老化に影響する因子など 3) 老年病の特徴の理解。 2. 老化と各種疾患 (解剖学・生理学を review しながら) <ol style="list-style-type: none"> A) 脳、神経系；高齢者脳血管障害の特徴 B) 心、血管系；高血圧、虚血性心疾患 (無症候性心筋虚血を含む)、不整脈、心不全 C) 呼吸器系；肺炎、肺結核、慢性閉塞性肺疾患、肺癌 D) 消化器系；高齢者の急性腹症、消化性潰瘍、消化管悪性腫瘍 E) 内分泌、代謝系；高脂血症、高齢者糖尿病 F) 骨、関節系；骨粗鬆症、変形性関節症などの疾患 G) 腎、泌尿、生殖器系；腎不全、前立腺肥大症と前立腺癌、子宮脱等 H) 血液系；高齢者の貧血 I) その他の器官系 (老年各診療科目の対象となる疾病、障害について) 3. 1) カルテ (医療情報提書) の読み方 <ol style="list-style-type: none"> 2) “薬 (処方箋)” の中身の調べ方と重要な薬の副作用の理解 3) 主な検査データの読み方 (血算・生化学・尿など) 4) 入所者の全身状態の把握の仕方 5) 入所者の緊急状態の把握の仕方と救急処置 6) 頻用される医療機器の理解——心電図・吸引機・血圧計・CT・MRI・胸部・腹部 X-P・エコー・アンギオなど 4. 1) 健康の概念 <ol style="list-style-type: none"> 2) わが国の健康水準と健康増進施策 3) 健康増進と生活習慣病などの疾病予防法 <p>—食生活と栄養・運動・喫煙・アルコール・休養とストレス—</p> 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点と筆記試験</p>	

<p>【授業科目】 レクリエーション活動援助法</p>	<p>【担当者】 藺田碩哉、高橋紀子</p>
<p>【開講期】 1年 前期</p>	
<p>【授業目標】</p> <p>介護サービスの究極の目的は、援助の対象となる人々がいきいきと生きがいを感じながら生きることができるように、生活全体を活性化することである。その中でレクリエーション（日常的な楽しさづくり）援助の果たす役割は大きい。この授業では、これからの社会福祉サービスにおけるレクリエーションの意味と価値を明らかにするとともに、レクリエーション活動援助の基本的な方法と援助者の果たすべき役割について体験学習を織り交ぜながら追求する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>藺田碩哉共著 「レクリエーション活動援助法」 中央法規</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p style="text-align: center;">授 業 計 画</p>	
<p>1) 出会いの時間・・・よりよく知り合うために 人と人との出会いの喜びを体験し、コミュニケーションを深めるレクリエーションの実験を体験する。</p> <p>2) レクリエーションとは何か レクリエーションのイメージの点検から始めて、レクリエーションという概念がなぜ生まれてきたか、現代の社会でレクリエーションの持つ積極的な意義を検討する。</p> <p>3) レクリエーション支援の必要 これからの福祉サービスのあり方を考え、その中でレクリエーション活動への援助が果たすべき役割を考える。福祉現場でのレクリエーションを紹介するビデオ視聴を素材に、小グループでの論議を行う。</p> <p>4) レクリエーション援助のプロセス（2回） レクリエーション援助はアセスメント－企画－実施－評価のプロセスを踏んで行われることが望まれる。その進め方を具体的な事例に即して検討する。</p> <p>5) レクリエーション援助者の資質（2回） レクリエーション援助者が身につけるべきコミュニケーション技術や人間関係能力について、グループ・エンカウンター的手法を使って体験学習する。</p> <p>6) ケーススタディ(1)・・・高齢者の場合（2回） 高齢者のレクリエーションの事例を取り上げ、それが持つ可能性、援助を行う上での問題点、高齢者にふさわしいレクリエーションの素材研究を行う。</p> <p>7) ケーススタディ(2)・・・障害者の場合（2回） 障害者のレクリエーションの問題を、障害者の生活を豊かにするノーマライゼーションの一環という視点から取り上げ、バリアフリーの実現の方策を検討する。</p> <p>8) 生活を楽しむ・・・ライフスタイルとレクリエーション レクリエーションは生活の中に多様な楽しみを作りだす総合的なプログラムであるという見地から、レクリエーションが根を下ろした生活のスタイルを考える。</p> <p>9) レクリエーション・パーティ実習 遊びの精神を生かし、一人一人が主人公であるような楽しいパーティを企画し、みんな役割を分担して実施し、全体の「まとめ」とする。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業時に取り組むワークシートの内容と、最後の総括レポートの出来ばえを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 実習指導	【担当者】 森山千賀子・今井百合子
【授業期】 1年 前期・後期	
【授業目標】	
1. 介護実習の重要性について理解する。 2. 介護実習を通じて学んだ知識・技術・態度を具体的かつ実践的に理解する。 3. 介護過程の展開について学び、実習終了後事例としてまとめる。 4. プロセス・レコードの検討、事例検討会を通じて様々な角度から一人の人をとらえる方法を学ぶ。	
【テキスト】	
最新介護福祉全書 17 『介護福祉実習指導』 メヂカルフレンド社	
【参考書】	
授業で紹介する	
授 業 計 画	
1. 施設介護実習・訪問介護実習 <ul style="list-style-type: none"> 1) 実習の目的について理解する。 2) 施設介護実習準備として、施設実習の機能と利用者について理解する。 訪問介護実習準備として、地域・家族・利用者について理解する。 3) 実習記録の書き方について学ぶ。 4) 実習後のグループワークにより、お互いの経験を交流し、今後の課題を明らかにする。 2. 介護過程の展開について学び、実習終了後に事例としてまとめ、自己の介護を客観的に見つめる視点を持つ。 3. プロセス・レコードの検討・事例検討会を通して、様々な角度から一人の人をとらえる方法を学ぶ。 また、他者の意見を聞き検討する中で、よりよい介護について考える機会とする。	
【評価方法】	
実習記録	ケーススタディ 平常点

【授業科目】 介護実習	【担当者】 森山千賀子・今井百合子
【授業期】 1年 前期・後期	
【授業目標】 1. 施設・地域で生活している人々の「暮らし」を理解し、施設設備や施設職員のあり方や必要な介護サービスについて考える。 2. 学校で学んだ理論・技術を基礎として、利用者の状況に応じた介護ができる。 3. 介護福祉士としての介護観を養う。	
【テキスト】	
【参考書】 授業で紹介する	
授 業 計 画	
介護実習は、45日間を3期に分けて行う。 1. 施設介護実習 1) 第1段階（2週間） 5月21日（月）～ 6月8日（金） *コミュニケーションが比較的とりやすい利用者との人間的な関わりを深め、利用者のニーズは何かを理解する。 *初歩的な日常生活援助を体験する。 *施設職員の一般的な役割について学ぶ。 2) 第2段階（4週間） 9月3日（月）～ 9月14日（金） *利用者との関わりを深め、利用者の生活歴を含めて全人的に理解する。 *障害のレベルに応じて求められる介護技術の適正な使い方について学ぶ。 *他職種の役割について理解する。 3) 第3段階（4週間） 11月5日（月）～ 11月30日（金） *施設運営のプログラムに参加し、サービス全般について理解する。 *個別の利用者を担当し、介護過程の展開について学ぶ。 2. 訪問介護実習（1週間） 老人居宅等事業の訪問介護員、入浴サービス及び在宅介護支援センター（訪問）職員との同行訪問を行う。 時期については、可能な限り第1段階に実施し、生活者としての利用者の理解を深める。	
【評価方法】 実習記録 レポート 平常点	

【授業科目】	修了研究演習	【担当者】	専任教員
【開講期】			
前期・後期			
【授業目標】			
<p>専任教員の指導のもと社会福祉学習のゼミナールを、週1回行い、社会福祉や介護福祉に関する学生の総合的力量的向上を図ります。</p> <p>また、学習を通じ、学生がテーマを掲げ、修了時までの間に「修了研究」を進められるよう援助します。</p> <p>【授業計画】</p> <p>専任教員の指導のもとに個別または小グループで文献購読、資料の収集、分析、観察などの方法により年間を通じて研究を進めます。</p> <p>また、担当教員の指導のもと、各学生は修了研究テーマを設定します。</p> <p>修了研究中間発表会・・・7月7日（土）13時～16時 （修了研究テーマとテーマ設定に至る問題意識、今後の研究計画）</p> <p>なお、学年末には研究の成果を「修了研究レポート」としてまとめ、修了研究発表会で発表を行います。</p> <p>修了研究レポート提出日　：　1月31日（木） 修了研究発表会　　　　　：　2月22（金）、23日（土）</p>			
【評価】			
研究の過程の積極性と努力および修了研究レポートによって評価します。			

【授業科目】 社会福祉制度政策論	【担当者】 中山正雄
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉制度は、社会の支配者と支配される側との歴史的な戦いの中で政策として展開されてきたものである。制度政策はその時代の社会の仕組みおよび社会の発展と密接に関係している。本講義では現代社会の社会福祉制度の現状と問題点を探りながら、社会福祉政策がどのような関係から成り立ちどのような関係で発達してきたのかを理解し、今後の社会福祉政策を福祉の担い手として判断する視点を深める事を目的とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>開講時に提示する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と社会福祉制度政策 2. 戦前の社会事業と政策 3. 戦後の社会福祉改革と社会福祉制度の確立 4. 社会福祉制度論と政策 5. 経済成長と社会福祉政策 6. 社会福祉諸制度の現状と基礎構造改革 7. 権利保障と権利擁護の制度政策 8. 日本の社会福祉制度の問題点と課題 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試験と出席状況</p>	

【授業科目】 障害福祉論	【担当者】 高橋流里子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>障害とは何か、障害のある人が社会からどう観られてきたか、障害のある人にはどんな生活のしにくさがあるのかなどを事例を通して理解をしてもらいたい。また、日本における障害者福祉政策の理念と政策動向及びサービスの現状にふれる。これらを通して専門職として介護福祉士の課題を考える機会にしてほしい。</p>	
<p>【テキスト】 高橋流里子 『障害者の人権とリハビリテーション』 中央法規出版</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>1、障害をもつ人の生活は？</p> <p>2、さまざまな障害者観と基本的人権 ノーマライゼーション、自立生活、ソーシャルインクルージョンなど</p> <p>3、障害とは：障害の構造的理解</p> <p>4、心身の障害の種類や障害をもつ人の実態</p> <p>5、障害者福祉政策の体系と援助の実際</p> <p>6、当事者参加と権利擁護：専門職としての介護福祉士の課題</p> <p>予定されている授業は6回と少ないが、1回の授業時間が長いので、できるだけ学生さんとの活発なやりとりができる授業にしたい。乞うご協力を！</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>主は小レポート、期末試験で判断するが、出席と授業への参加態度も加味する。</p>	

【授業科目】 社会福祉援助方法論	【担当者】 山口尚子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>介護福祉の実践にとって必要な社会福祉援助技術の意義と内容について理解を深めると共にその応用能力を向上させる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉援助技術と介護福祉士 2. 社会福祉援助技術の基本的枠組み 3. 社会福祉援助技術の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個別援助技術（ケースワーク）の意義・機能・展開過程など (2) 集団援助技術（グループワーク）の意義・機能・展開過程など (3) 地域援助技術（コミュニティワークなど）の意義・機能・展開過程など (4) 関連援助技術（ケアマネジメント、ネットワーク、スーパービジョンなど） 4. 社会福祉援助技術における具体的手段 <ol style="list-style-type: none"> (1) 面接の構造と技法 (2) 記録の書き方 (3) 事例研究の方法 5. 事例研究 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と学期末レポートによる。</p>	

学籍番号・

氏名・

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

教務課 042(346)5619